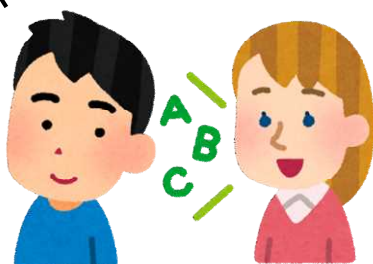


# 高等学校学習評価Q&A

## 外国語科



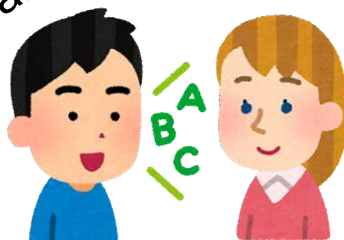
Listening



Reading



Speaking



Writing



教  
一  
如  
女

教えることは学ぶことである  
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

本資料においては、以下の資料について、それぞれ略称を用いることとします。

「学習指導要領解説」：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編 英語編 文部科学省

「改善等通知」：「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」平成31年3月29日 初等中等教育局長通知

「参考資料」：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 外国語】文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「学習評価のハンドブック」：学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）令和元年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

「指導資料」：鹿児島県総合教育センターが学校における課題や教科等の指導に関する今日的課題などについて研究した成果をまとめた資料

# 高等学校学習評価Q & Aについて

平成30年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や高等学校の教科等別に評価規準の作成のポイントをまとめています。

高等学校学習評価Q&Aは、「指導と評価の一体化」について、先生方に分かりやすくガイドするために、以下のような工夫をしています。

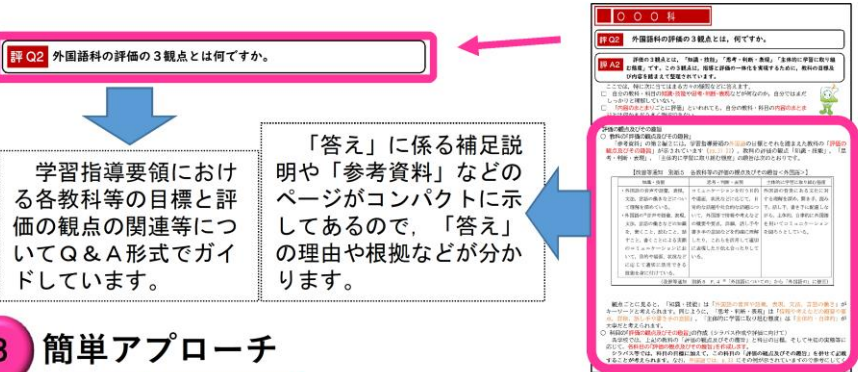


## 1 大事なポイントをガイド

学習指導要領解説を踏まえ、「参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

## 2 Q&A

先生方が理解したり、自己点検したりできるように、各教科等の目標や単元（題材）の目標に照らした評価規準の作成の手順や評価における留意点、キーワードを示すなど、重要なポイントを焦点化しています。



## 3 簡単アプローチ

教科等ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。「指導と評価の一体化」を図り、生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に役立ててください。

※ 本資料では、ページ数のみが書かれている時には、「参考資料」の該当するページを意味しています。

## 目 次

<b>評Q1</b>	高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。	1
<b>評Q2</b>	外国語科の評価の3観点とは、何ですか。	2
<b>評Q3</b>	外国語科の評価の進め方はどのようにすればよいですか。	4
<b>評Q4</b>	評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。	7

## 外国語科（共通）

評 Q1

高等学校における学習評価の改善・充実に向けて、ポイントになるのはどのようなことですか。

評 A1

学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等の評価の観点、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。以下に具体的なポイントについて示します。

学習評価の改善・充実に向けたチェックポイント（□にチェックを入れてみましょう。）

- 学習評価は何のために行うものなのかを理解している。
- 「改善等通知」で示された学習評価の改善の基本的な方向性を理解している。
- 指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、観点別学習状況の記載欄が設けられたことを理解している。
- 観点別学習状況の評価の観点が3観点到整理して示されたこと、また、それぞれの観点で評価する内容を理解している。
- 観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施することを理解している。
- 評定については、観点別学習状況の評価がその基本的な要素となることを理解している。
- 評価の総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る準備ができています。
- 観点別学習状況の評価や評定を的確に行うために取り組むべきことを理解している。
- 指導と評価の一体化を実現することや観点別学習状況の評価の充実と質の向上を図ることの重要性について理解している。
- 生徒にこれからの時代に求められる資質・能力を確実に育成するために、授業改善及び学習評価の改善・充実に向けて、主体的に実践と探究を進めていこうとしている。

学習評価の改善・充実に向けて、より理解を深めるために、以下の「指導資料」で御確認ください。

「指導資料」 令和2年10月発行  
学習評価 第1号「高等学校に  
おける学習評価の改善・充実に  
向けて」



<https://bit.ly/3PzmJAV>

【学習評価第1号】

「指導資料」 令和3年10月発行  
学習評価 第2号「高等学校に  
おける学習評価の改善・充実に  
向けてⅡ」



<https://bit.ly/3LI9kDn>

【学習評価第2号】

併せて以下の動画（30分）の解説、パワーポイント資料等も御活用ください。

鹿児島県総合教育センターWeb ページ  
「教育資料」内の「学習評価」の  
学習評価の基本的な考え方  
高等学校 学習評価について



<https://bit.ly/3lvrBtf>

「指導と評価の一体化」のため  
の学習評価に関する参考資料  
第1編 総説



【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

<https://bit.ly/3ktMiFi>

# 外国語科

## 評 Q2 外国語科の評価の3観点とは、何ですか。

評 A2 評価の3観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」です。この3観点は、「指導と評価の一体化」を実現するために、教科の目標及び内容を踏まえて整理されています。

ここでは、次の疑問などに答えます。

- 外国語科の**知識・技能**や**思考・判断・表現**とは、どういうものだろうか。
- 「**内容のまとめ**りごとに評価」するための外国語科の**内容のまとめ**りとはどのようなものだろうか。



### 1 評価の観点及びその趣旨

#### ○ 教科の「評価の観点及びその趣旨」

「参考資料」の第2編2には、学習指導要領の外国語科の目標とそれを踏まえた教科の「**評価の観点及びその趣旨**」が示されています（pp.31-32）。教科の評価の観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨は次のとおりです。

#### 【改善等通知 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨<外国語>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

観点ごとに見ると、「知識・技能」は「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働き」がキーワードと考えられます。同じように、「思考・判断・表現」は「情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図」、「主体的に学習に取り組む態度」は「主体的・自律的」が大事だと考えられます。

#### ○ 科目の「評価の観点及びその趣旨」の作成（シラバス作成や評価に向けて）

各学校では、上記の教科の「評価の観点及びその趣旨」と科目の目標、そして生徒の実態等に  
応じて、**各科目の「評価の観点及びその趣旨」を作成します。**

シラバス等では、科目の目標に加えて、この科目の「評価の観点及びその趣旨」を併せて記載  
することが考えられます。

なお、外国語科では、p.33にその例が示されていますので参考にしてください。

### 2 「内容のまとめり」

1で示した評価の3観点は、「内容のまとめり」ごとに評価します。「内容のまとめり」とは、「学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの」とされています（第1編第2章のpp.15-16参照）。

外国語科の場合、「内容のまとめり」とは「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の5領域を指します。  
「英語コミュニケーションⅠ」を例にあげると次のようになっています（第2編1 pp.29-30 参照）。

- 聞くこと
  - ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。
  - イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
- 読むこと
  - ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。
  - イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
- 話すこと [やり取り]
  - ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。
  - イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。
- 話すこと [発表]
  - ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。
  - イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。
- 書くこと
  - ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。
  - イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

「参考資料」には、内容のまとめりについて、簡潔に次の3点が示されています。それぞれ参照してください。特に2番目のポイントについては、観点ごとにその留意点が書かれているので参考になります（例：「話すこと」の知識・技能における音声の扱いなど）。

- 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係（第2編2①（p.34））
- 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント（第2編2②（1）（pp.35-36））
- 「内容のまとめりごとの評価規準（例）」（第2編2②（2）（pp.37-39））

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/3vUEIzr>



# 外国語科

## 評 Q3 外国語科の評価の進め方はどのようにすればよいですか。

**評 A3** 外国語科における単元や内容のまとめりごとの評価の進め方は、次のように「参考資料」第3編第1章1 (p.43) に示されています。

- 1 単元の目標を作成する。
- 2 単元の評価規準を作成する。
- 3 「指導と評価の計画」を作成する。
- 4 授業を行う。
- 5 観点ごとに総括する。



【第3編第1章～】

<https://bit.ly/3vXAEI7>

ここはよく理解する必要があるので、ぜひ「参考資料」の冊子又は二次元コードからの「参考資料」のデータをお読みください。

ここでは、次に当てはまる先生方の疑問や要望などに答えます。

- 単元の評価規準の設定から評価の総括までの流れなど、「参考資料」の事例を参考にしたいが、何がどこに書いてあるか分からない。
- 評価の場面は、授業の観察、ペーパーテスト、プレゼンテーション等があるが、それぞれの場面での3観点を評価する方法や課題の設定の工夫など、まだしっかりと理解していない。
- 「指導と評価の計画」を学年で共通理解したり、学習指導案を作成したりするために、「参考資料」の事例を参考にしたい。



### 1 単元の評価規準の作成

「参考資料」第3編第1章2 (pp.44-49) は「単元の評価規準の作成のポイント」です。単元ごとの目標及び評価規準の設定方法が書かれています。

知識・技能	「文章を読み取るために必要となる【言語材料】を理解している。」が基本的な形となる。
思考・判断・表現	「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、概要や要点を捉えている。」が基本的な形となる。
主体的に学習に取り組む態度	「【目的等】に応じて、【話題】について【書かれた文等】を読んで、概要や要点を捉えようとしている。」が基本的な形となる。

これを基にして、p.46 に、ある単元の「読むこと」イの評価規準の設定例が具体例として示されています。下記を参考にして、単元の評価規準を設定してみましょう。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (設定例)	<知識> ・文章を読み取るために必要となる語彙や表現を理解している。 言語材料	料理してみたい世界の料理に 目的等 ついて説明するために、世界	料理してみたい世界の料理に 目的等 ついて説明するために、世界
	<技能> ・世界の国々の食文化について書かれた説明文を読み取る技能を身に付けている。 書かれた文等	の国々の食文化について書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えている。 話題	の国々の食文化について書かれた説明文を読んで、概要や要点を捉えようとしている。 話題

## 2 事例について

「参考資料」の事例には、全教科を通じて次のような特徴があります。

- 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している。
- 観点別学習状況について評価する時期や場面の精選について示している。
- 評価方法の工夫を示している。

### ○ 外国語科の事例の特徴

外国語科では、五つの事例が示されています。第3編第2章2 (p.51) にまとめられていますので、参照してください。以下は、外国語科の事例の特徴です。

- 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」を行う前に、単元を通じてどのような指導が行われているか具体的に示されている。
- 正答や生徒の解答例などが具体的に示されている。
- 上記の解答例の評価をAまたはB、あるいはCと判断した理由が示されている。

### ○ 各事例の特徴（下記の「PT」は、「パフォーマンステスト」を意味します。）

事例	科目	キーワード	備考
1	英語コミュニケーションⅠ	複数単元を通じた「話すこと〔発表〕」における各観点の評価、指導と評価の計画から評価の総括まで	「話すこと〔発表〕」のPTの実施について詳しい説明あり。また、複数単元での評価が示されている。
2	英語コミュニケーションⅡ	「聞くこと」、「読むこと」における「思考・判断・表現」の評価	ペーパーテストの「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の出題例あり。
3	論理・表現Ⅰ	複数単元を通じた「話すこと〔やり取り〕」における「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価	「話すこと〔やり取り〕」の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の各PT例あり。
4	論理・表現Ⅱ	「書くこと」における「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価	「書くこと」の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の例あり。
5	全科目に共通	「主体的に学習に取り組む態度」の評価	「振り返りシート」の具体例あり。

## 3 総括の方法

総括については、単元などの総括と学期末や学年末等における総括が考えられます。以下を参照してください。

### (1) 単元などの総括

単元などの総括については、各事例の最後にその方法や考え方が示されています。例えば、事例1では、p.58に次の例があります（a～cの数で判断する方法です。）。

【生徒A】						
	活動観察		パフォーマンス テスト	「話すこと〔発表〕」の評価	他の領域の 評価	学期末の 観点別評価
	単元1	単元2				
知	b	a	a	a	(a～c)	(A～C)
思	a	a	a	a	(a～c)	(A～C)
態	a	a	a	a	(a～c)	(A～C)

単元1からパフォーマンステストまでの評価において、いずれの観点においても「a」の数が多いことに鑑み、学期末の「話すこと〔発表〕」における各観点の評価結果をそれぞれ「a」「a」「a」としている。

### (2) 学年末等の観点別学習状況の評価の総括

単元等で評価を行った後に、学期末や学年末等に総括する方法が「参考資料」第1編第2章1 (5) (pp.17-18) に書かれています。評価結果のA, B, Cの数を基に総括する場合と評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する場合です。さらに、「参考資料」第1編第2章1



(6)には、観点別学習状況の評価を評定へ総括する方法が書かれています(p.18)。こちらを併せてお読みください

なお、外国語科の場合は、①単元等での観点別学習状況の評価→②内容のまとめり(領域)ごとの総括→③学期末・学年末における総括となります。そのイメージが p.48 に次のように示されているので確認してください。

	ペーパーテスト等の結果 (活動の観察の結果を加味)		パフォーマンステストの結果 (活動の観察やペーパーテスト等の結果を加味)			観点別 評価	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	b	b	c	c	b	B	3
思考・判断・ 表現	b	b	c	b	c	B	
主体的に学習に 取り組む態度	b	b	b	b	c	B	

振り返りの記述内容等と活動の観察を参考

#### 4 「指導と評価の一体化」の観点を考慮した指導計画について

「指導と評価の一体化」のためには、「指導と評価の計画」の作成が大切です。それが学習指導案作成にもつながります。その際には、次の点に留意し、作成してください。

- (1) 単元(題材)の目標と評価規準を設定して、単元(題材)の指導計画や本時の指導計画を作成する。

「指導と評価の一体化」の観点から、評価規準で示したことについて、生徒が学ぶ機会を設けることがとても大切です。目標について、単元のどの場面で生徒が学ぶのかを明らかにします。

「指導と評価の計画」は、「参考資料」にある事例の形式(pp.61-62など)を参照しましょう。

- (2) 観点別学習状況の評価につながる「記録に残す評価」は、全員を対象に行う。

評価には、生徒の目標の達成状況を単元途中で確認する「指導に生かす評価」と主に単元(題材)の後半で行う観点別学習状況の評価のための「記録に残す評価」があります。単元目標は単元が終わるまでに達成できればよいので、「記録に残す評価」については、単元の後半に主な評価場面を設けることが一般的です。また、「記録に残す評価」は、全員に対して一斉に行うのが原則です。全員に行うことができない場合には、「記録に残す評価」を行うことは通常はありません。この「記録に残す評価」をいつ、どの場面で行うか、「指導と評価の計画」の中に明記しましょう。

- (3) 具体的な目標の達成状況の例を示す。

単元の最初に目標を示す際には、生徒の達成状況の例を具体的に示したいものです。例えば、生徒の作品例や実際に活動を行っている様子(できれば評価Aの生徒のものと評価Bの生徒のもの)を示すと、生徒は目標とする達成状況までの過程のイメージを得やすくなります。また、教師にとっては、個々の生徒の学習の達成状況を把握しやすくなるので、生徒一人一人への個別の指導につなげることができます。これは、「学習評価のハンドブック」に示されている「教師の指導改善につながるものにしていく」こととなります。外国語科では、まず生徒に達成してほしい目標となるモデル英文を2, 3提示し生徒と目標を共有するなど、目標達成につながる単元や本時での学びとなるように計画しましょう。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第3編第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程センター】

<https://bit.ly/3Ky6512>



## 外国語科（共通）

評 Q4

評価をする際には、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評 A4

学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、「指導と評価の計画」を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

高等学校及び特別支援学校高等部においては、令和4年度以降に入学する生徒から、観点別学習状況の評価を指導要録に記載することになるなど、各学校においては学習評価の改善・充実が喫緊の課題となっています。現在、当センターにも以下のような学習評価に関する様々な質問が寄せられているところです。

- 自分の担当する教科の3観点がよく分からず不安です。まず何から始めればよいですか。
- 定期考査等のペーパーテストでは、「知識・技能」，「思考・判断・表現」のどちらを測る問題か，明示して出題すべきでしょうか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」のみを取り出して評価できますか。
- これまで「平常点」として評価していたものをそのまま「主体的に学習に取り組む態度」として評価してよいですか。
- 課題の提出状況や小テストの結果は「主体的に学習に取り組む態度」で評価しないのですか。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が「知識・技能」や「思考・判断・表現」の評価と大きな差があることはありますか。
- これまでと同様に「評点」を用いて評定を算出してもよいですか。
- 観点別学習状況の評価「A B B」などを学年末に「評定」へ総括する際に「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」を 1：1：1 ではなく 1：2：1 とするなど3観点で軽重を付けてもよいですか。
- 特別活動，総合的な探究の時間の評価はどのようにすればよいですか。
- 指導要録だけでなく通知表にも観点別学習状況を記載した方がよいですか。
- 観点別学習状況の評価を基にした評定について，生徒や保護者に配布する文書例はありますか。

当センターでは、これらの質問に対する回答を「指導資料」としてまとめています。次の「指導資料」を参照し、学習評価に関して、より理解を深めてください。

「指導資料」 令和3年10月発行  
学習評価 第3号  
「高等学校における学習評価の改善・充実に向けてⅢ  
—よくある質問から—」  
<https://bit.ly/3wF7UUZ>



【学習評価第3号】